



▲それぞれのボードを持って抱負を語った選手

【出場クラスと選手名】

▶ショートボードメン	ボーイズクラス(13～16歳)	渡邊英路さん(新谷区・御前崎中3年)
▶ショートボードメン	シニアクラス(35～44歳)	戸河里宗平さん(大山区)
▶ショートボードメン	シニアクラス	増田龍也さん(白浜区)
▶ショートボードメン	マスタークラス(45～51歳)	山口高志さん(薄原区)
▶ショートボードメン	マスタークラス	植田有記さん(広沢区)
▶ショートボードメン	マスタークラス	岩堀靖さん(佐倉一区)
▶ショートボードメン	カフナクラス(59歳以上)	小野田政宏さん(女岩区)
▶ボディボードウィメン	シニアクラス	大瀧美香さん(大山区)
▶ボディボードウィメン	グランドマスタークラス(52～58歳)	柴田真海子さん(西側区)

サーフィン全国大会に出場

5月の支部予選で優秀な成績を収め、10月11日から18日にかけて牧之原市で開かれる「第59回全日本選手権大会2025」に出場する9人のうち6人が10月1日、下村市長に抱負を語りました。

同大会には、全国から各クラス100人～150人ほどの選手が出場します。下村市長は、「市から9人も出場するのはとても誇らしい。全力を尽くしてきてください」とエールを送りました。



収穫体験で実りの秋を実感

浜岡北小学校の5年生25人が10月3日、あらさわふる里公園職員の指導のもと稲刈りを体験しました。

収穫した稲は、5月に自分たちで植えたもの。収穫したもち米は、授業の中で調理して食べる予定です。吉野航世さん(新野西)は「4カ月でここまで成長するなんて驚きました。稲を鎌で刈るのが楽しかった」と笑顔を見せました。

◀刈った米を束ね、「稲架^{はき}」にかけて天日干しさせる



火事からまちを守るために

防火意識の高揚と火災予防の普及を目的とした防火ポスターコンクール表彰式が10月8日、市消防署で執り行われました。

市内の小学生から応募された47作品のうち7作品を表彰。市長賞を受賞した野上優乃さん(東町)は「火事が起きても安全に行動できるように描きました」とポスターに込めたメッセージを話しました。

◀応募作品は11月7日から18日まで図書館アスパルに展示



いもじいさんをしのび法要

御前崎にサツマイモ栽培を広めた江戸時代中期の先人で、「いもじいさん(甘藷翁)」の愛称で親しまれる故大澤権右衛門の遺徳をしのぶ祥月忌法要が10月9日、海福寺で営われました。

甘藷翁祥月忌の実行委員長でもある下村市長は、「地域に根付くいもじいさんの功績に感謝し、後世に伝えていきたい」と話しました。

◀大澤権右衛門の功績を称える顕彰碑に焼香する参列者



秋空に響く祭り囃子の音色

秋の例祭に合わせ、屋台の引き回しが、10月11日から12日にかけて市内全域で実施されました。秋の収穫への感謝や五穀豊穡などの願いを込めるものです。

地域ごとに受け継がれている伝統的な祭り囃子や掛け声に加え、地区自慢の屋台がまちをにぎわせました。住民が一体となって祭りを支え、地域の活力を感じさせる光景が広がりました。

◀祭り囃子や掛け声に合わせて提灯を振りながら練り歩く住民



市民の健康増進などに協力

明治安田生命保険相互会社は10月16日、「地元の元気プロジェクト」の一環で、市に80万6,900円を寄付しました。

同社からの寄付は5回目で、総額266万800円になります。寄付金は同社の社員によるもので、市民の健康福祉に活用されます。同社菊川営業所の永尾健登所長は「市民の健康に役立てばうれしい」と話しました。

◀下村市長は「市民が健康に暮らせるように努めます」と話しました



爽やかな汗流し完走目指す

「第15回御前崎マリンパークマラソン」が10月19日に開催され、市内外から793人のランナーが参加しました。参加者は昨年度から300人増加しました。

マリンパーク御前崎を出発し、御前崎海岸や港を走るなど、まちの魅力を凝縮した自慢のコース。参加者は潮風を感じながら、1kmから10kmの各コースを元気に駆け抜けました。

◀力強い走りで行くゴールを目指すランナー